

長いものに巻き込まれた政治家よ サヨウナラ!

巻き込まれない、巻き返そうとする「小さな市民」にエールを!

玄 香実

「安倍政権には何も期待していません。彼のうやむやのうちに、ハッキリしないで、しかも着々とやっつけていく手法は非常に日本的ですね。……その中で着々と改憲の方向へ向かい、『普通の国』にする。……結局、アメリカ合州国がつくっている大きな世界政治の方向へ、まやかしの方向へ全部巻き込まれつつある。……野党がしっかりと自分の原理、原則を押さえてハッキリとした反対論を言わないとダメです。市民もしっかりと巻き込まれていくばかりです」(小田実『中流の復興』NHK出版より)

6年前の参議院選挙で、与野党逆転を伝えるテレビに小田さん死去の速報が流れた夏の日、「一票の行使」ができない在日の私ですら、巻き込まれず、巻き返した有権者の選挙結果に長いトンネルからの出口を見た思いがした。しかしいま、かつて政権を投げ出した安倍氏が自らの政権復帰を「再チャレンジ」と胸を張る日本社会を驚きとあきれた気持ちで見ている。契約期限切れにおびえながら働くフリーターや生活保護打ち切り不安を抱える貧困者、また、就活の際、本名を名乗ると、なぜ朝鮮籍? 出身学校は? 通名で働かないのと

言われる在日コリアンの現実。そんな日本の社会が本当に再チャレンジ社会といえるのだろうか? 5年前、小田さんが上記の著書で遺した言葉はまさに今に通じる警鐘でもある。安倍首相は2月21日、日本の植民地支配や侵略への反省とおわびを表明した「村山談話」を踏襲するどころか、歴史認識は「歴史家、専門家に任せるべきだ」「歴史認識に立ち入るべきではなく、政治家は未来を語るべきだ」と、米紙インタビューで述べた。爪を隠して逃げるつもりなのだろうか。

その歴史認識や事実が教育現場で権力の都合のいいようにわい曲されている。本年1月24日の東京都教育委員会の発表によると、東京都の高校日本史副読本で、関東大震災直後に起きた朝鮮人虐殺に関する記述について、2012年度版「大震災の混乱の中で、数多くの朝鮮人が虐殺された」を、来年度から「朝鮮人の尊い命が奪われました」と「修正」という。猪瀬都知事は「このことについて」形容詞を変えることくらい大した意味はないと思いますよ……」と記者会見で答えている。そのうち、形容詞だけでなく、動詞も、主語も、述語も変えていくだろう。

自民政権から民主党政権、また自民政

権に変わっても、朝鮮高校への無償化除政策は変わらない。消費税増税や武器輸出三原則緩和を実現させた民主党政権下でも朝鮮高校無償化は実現されなかった。そればかりか、神奈川県知事は「北朝鮮の核実験」を口実に県内の朝鮮人学校への助成金を打ち切ると発表、川崎市の市長は2月19日の記者会見で、助成金の代わりとして市内の朝鮮人学校に拉致家族会の横田滋さん夫妻の著書やビデオを現物支給すると発表した。「東京新聞」によると、横田滋さんは北朝鮮の核実験と朝鮮人学校の無償化問題とは別であると述べている。私が今の日本社会を危惧するのは、安倍政権を見習うがごとき、私達生活者が身近に暮らす地方自治体首長のこのような発言である。

今年も高校無償化から除外された朝高生が私の塾から巣立って行った。大学で専門知識を学び、弁護士や社会福祉士、医師、看護師、介護士などとして日本の少子高齢化社会を支えているこれら在日コリアン3世、4世の若者たちは、日本が朝鮮を植民地にした過去の歴史なしに存在しない。なぜなら、彼ら自身が、日本による侵略戦争、植民地支配の犠牲者の子孫だからである。夏の参議院選挙では「被災者生活再建支援法」成立時のように市民に寄り添い、巻き込まれず、巻き返すような人を議員に選び、日本に真の共生社会が築かれんことを、願うばかりである。

(ヒョン・ヒャンシル/ASUKA塾主宰、小田実文学と市民運動を語り考える会)